
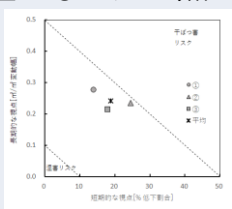




No.3 土地利用型農業法人が取り組む加工業務用にんじんの生産安定

- 活動期間 令和4年度～令和5年度
- 対象者名 (農)タカギ農産, (農)中塚ファーム育み, (農)中田アグリ, (農)サンファームあがと, (農)みらいす青生 (5経営体)
- 課題の背景
 - ・R3に米価が大幅下落し露地園芸作物への一層の転換が推進されている。
 - ・美里町内の農業法人が加工業務用にんじんの契約出荷に取り組んでおり, R3は延べ面積で6.0haまで増加している。
 - ・水稲や大豆と競合しない作業体系を組みやすく, 収入源として有力と考えられる。
 - ・技術的な課題として, 排水対策による湿害回避, 加工業務用用途に適した品種選定と収穫期の拡大, 病害虫防除(黒葉枯病など)などが挙げられる。

活動内容及び成果の概要

定性的目標	活動事項	活動内容及び成果
<ul style="list-style-type: none"> ■ ほ場条件の改善や適期作業の取組が行われるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 土壌環境調査 ◆ 病害虫対策 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「湿害リスク調査」を実施し, カットドレーンや弾丸暗渠による排水対策の効果を確認できた。 ■ 土壌診断が適切な追肥や緩効性肥料の活用に繋がった。 ■ 防除資料作成や圃場確認により, 昨年課題となった「黒葉枯病」の被害を抑制できた。一方, 冬作で害虫被害による欠株が散見し対策が必要である。 ■ 巡回等で適期作業の重要性が認識され生育収量の向上に繋がった。   <p>【湿害リスク調査】</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ 水田転作による高収益作物として経営の基幹品目となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 品種検討実証 ◆ 生育確認調査 ◆ 現地検討会開催 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 品種比較調査により, 夏作および冬作で地域に適した品種を概ね把握できた。 ■ 定期的に生育調査を行いJAと情報を共有し, リレー出荷のための収穫期予測に活かした。 ■ 主要品種の種苗会社と連携して現地検討等を実施し栽培技術の向上に努めた。 ■ R4の延べ面積は6.4haとなったが, 夏作は収穫直前の大雨被害で冠水し大幅減収, 冬作は販路の関係で年内出荷割合が減少した。 ■ 一方で収穫調査では設定反収(夏1.5t/冬2.2t)を超えており, R5は排水対策の徹底や新たな販路の確保により年内出荷量の向上を図りたい。   <p>【大雨被害による冠水】</p> <p>【収穫調査】</p>

定量的数値目標の達成状況

数値目標：販売数量 R3年 70.2t → R4年 75.1t → R5年 80.7t
 (7月～12月) (7%増) (15%増)

R4年度における達成状況：出荷数量 50.8t(目標対比68%)